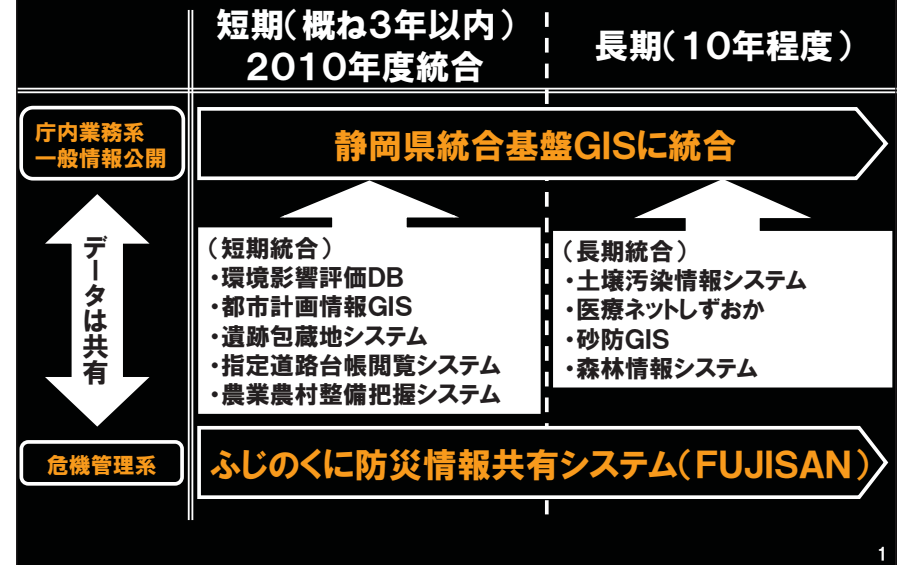


静岡県における 地理空間情報の 利活用事例

静岡県GIS統合基本計画



1

静岡県統合基盤地理情報システム(GIS)



2

災害情報 + α を発信

- 災害情報だけ充実しても使われない！
⇒ 普段から見てもらえる情報を！
- 時代は変わった！
⇒ 行政だけが情報を保有する時代？
⇒ 積極的に公開しよう！
(オープンデータへの出発点)

3

富士山ビューポイント



4

国土地理院との包括協定締結

～迅速かつ効果的な情報提供～
写真、紙、数値など自治体のニーズに即した資料の提供



平成24年4月19日 (NHKニュース7)



平成24年4月19日 (NHK静岡ゆうどきネットワーク)

5

旧版地形図の利活用(1/2)

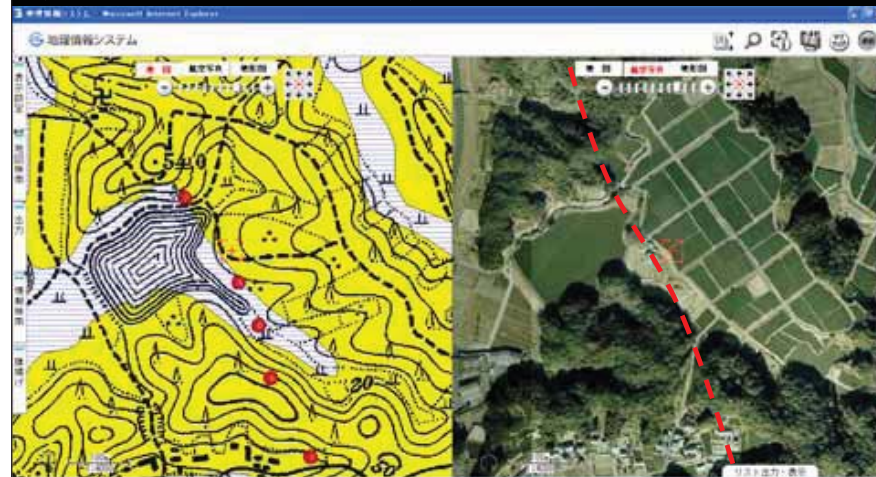


※旧版地形図に「安政東海地震想定津波浸水域」のレイヤを重ねて表示

6

旧版地形図の利活用(2/2)

(ボーリング調査位置の選定)



7

旧版地形図の公開



旧版地形図を透過するように作成
⇒ 現在の地形や空中写真との比較が可能

8

第4次地震被害想定策定の基礎資料

■ 津波浸水域を想定するにあたり、詳細な地形データが必要
⇒ 県全体の精密な地形データ等を収集するのは困難・・・

そこで、国土地理院に相談！

- ⇒ 必要な地形データを無償提供！
- ⇒ 専門業者により津波浸水シミュレーション用の地形モデルに変換

【効果】

最新の資料を網羅的に収集でき、個別収集よりも大幅に時間短縮！

国土地理院の地図情報を用いた、地震動・津波等の予測について、平成25年度に公表

9

標高データの利活用

(包括協定により2mメッシュの標高データを入手)



空中写真では、今の堤防の高さや形がよくわからない

10

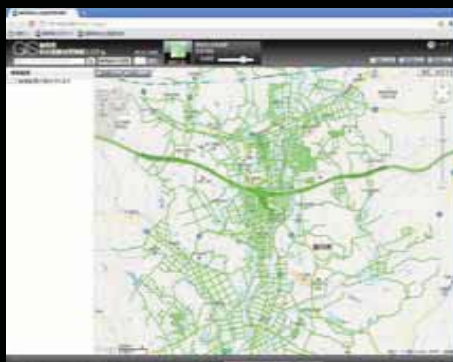
標高データの利活用 (2mメッシュの標高データ利用)



11

指定道路地図の作成

■ 国土地理院の空中写真等を複合して指定道路図を作成



GISに指定道路図をアップ

- ・ 指定道路図及び関連資料を閲覧できる
- ・ 県、各市町でインターネット公開も可能



12

県立中央図書館所蔵資料の補完

■ 国土地理院から提供された写真（下図は昭和20年代の清水）

提供された写真番号一覧

1	M724-122	17	M443-147
2	M724-124	18	M443-149
3	M724-126	19	M443-151
4	M724-128	20	M443-153
5	M724-130	21	M443-155
6	M724-132	22	M142-A-5-3
7	M724-134	23	M142-A-5-7
8	M724-136	24	M142-A-5-9
9	M724-138	25	M142-A-5-11
10	M724-142	26	M142-A-5-13
11	M724-144	27	M142-A-5-26
12	M724-146	28	M142-A-5-28
13	M724-148	29	M142-A-5-30
14	M724-150	30	M142-A-5-32
15	M724-152	31	M142-A-5-34
16	M443-145	32	M142-A-5-41



- ・ 学校教育の資料
- ・ 文化財の旧地形の確認

13

Open Data とは？

「オープンデータ」とは、

「営利目的も含めた二次利用可能なルールで公開」

された、「機械判読に適した形式のデータ」のこと

ちなみに・・・

中国では「オープンデータ」を「開放資料」と訳すそうです！

14

OPEN DATA

個人情報
機密情報

自由に使えるデータ
(オープンデータ)

公開可能なデータ

行政情報(情報資産)

公開かつ自由に使えるデータを増やす！

出典「国際大学GLOCOM:智場#119特集号」

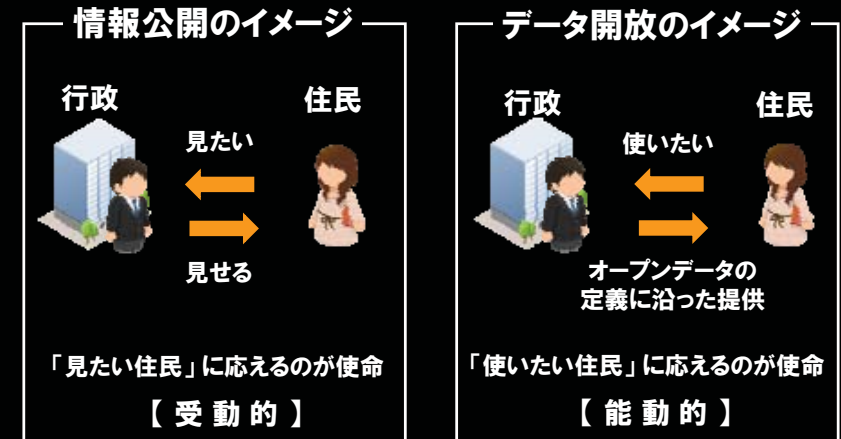
15

G8「オープンデータ憲章」5原則

- **原則としてのオープンデータ**
すべての政府のデータは原則として公表されとの期待を熟成
- **質と量**
適時・包括的・正確な高品質のデータを公開
- **すべての者が利用できる**
誰もがデータを獲得・利用でき、無料で制約のないものであるべき
- **ガバナンス改善のためのデータの公表**
データの収集や公表の過程の透明性の確保
- **イノベーションのためのデータの公表**
商業利用を含めた利活用の普及と機械判読が容易な形式で公表

16

オープンデータは「データ開放」



出典「CCL Inc」

17

震災とデータの関係 (地理空間情報の観点から)

■ 阪神淡路大震災

- 被災状況を視覚化する地図がなく、手書きの地図を利用

⇒ GISの普及

■ 東日本大震災

- 津波によりGISサーバが流出(データ喪失)
- データは紙かPDFで、二次利用可能のルールがない
- 避難所をマッピングするために72時間以上を要した

⇒ オープンデータ化の必要性

18

静岡県の取組 ⇒ できることからやってみる！

- ① できない理由を議論しない！
- ② できることからやってみる！
- ③ 最初から完璧を目指さない！



- 公開しているGISの防災系データから始めてみよう！
⇒ 既に一般公開している情報であり、災害時に絶対に必要！
- GISデータならオープンデータ化の手間がほとんど掛からない！
⇒ GISからワンクリックで「CSV」や「Shapefile」に出力できる！
- 位置情報付きのデータから始めてみよう！
⇒ すぐに地図にマッピングできるし、ニーズもある！（経団連調査）

19

静岡県は「PDCA」⇒「pDCA」で！

静岡県のオープンデータは
スモールスタートでスパイラルアップを目指します！



①できない理由を議論しない！

③最初から完璧を目指さない！

②できることからやってみる！

ふじのくにオープンデータカタログ

<http://open-data.pref.shizuoka.jp>

地理空間情報のオープンデータ化の課題

- GISから誰もが直接データ出力できる機能があれば・・・
⇒専用カタログサイトは不用かもしれない！（公開の手間軽減）
- オープンデータ提供後の精度問題
⇒元々が小縮尺地図上で作成されたデータの精度は低い
- 異なる座標への変換は誰が行うべきか？
⇒行政コストを掛けて変換すべきか議論が必要



地理空間情報のオープンデータ化への期待が高まっています！
まずは防災対応のためにオープンデータ化をはじめませんか？

地理空間情報の活用等に関する 関東甲信地域連携協議会

日 時：平成27年1月29日（木）
会 場：九段第2合同庁舎8階
住 所：東京都千代田区九段南1丁目1-15
緯 度（十進表記）：35.693596
経 度（十進表記）：139.754498
U T Mポイント：54SUE87315067

静岡県企画広報部 情報統計局 情報政策課 杉本直也
E-mail：naoya2_sugimoto@pref.shizuoka.lg.jp